



北九州市立田原中学校
 道德通信 No. 3
 2014年10月15日

平和学習の取り組み

田原中学校では各学年のテーマに沿って平和学習に取り組みました。

「ひとりの子ども、ひとりの教師、一冊の本

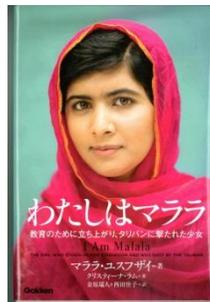
そして一本のペンが世界を変える。」

ノルウェーのノーベル賞委員会は10日、2014年のノーベル平和賞を、パキスタンでイスラム武装勢力に銃撃されながらも女性の教育権を訴えたマララ・ユスフザイさん（17）と児童労働に反対する世界的な運動を組織しているインドのカイラシュ・サティアルティ氏（60）に授与すると発表しました。マララさんは、11歳の時、英BBC放送のウルドゥー語ブログにペンネームを用いて日記を投稿し、その後女性の教育の権利を認めないタリバンの圧力に屈せず、「女の子にも教育を、学校に通う権利を」と訴え続ける姿勢が多くの人々の共感を呼びました。2012年10月9日（当時15歳）下校途中、タリバンに頭部を



撃たれ、生死の境をさまようものの、奇跡的に命をとりとめ、その後も教育のための活動を続けています。全世界の子どもたちがみな教育を受けられるよう訴えるとともに、NPO組織である「マララ資金」を通して教育支援活動をサポートしています。彼女の16歳の誕生日、2013年7月12日、ニューヨークの国連本部においておこなった演説の内容は「言葉の力」の強さを感じる内容です。一部紹介します。

マララ・ユスフザイ著 金原瑞人+西田佳子訳
 『わたしはマララ
 教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』
 学研 2013年 より引用



1年

DVD「対馬丸」より
 たった一発の魚雷がすべてを破壊していくシーンを、息をのんで視聴し、改めて平和の大切さ、ありがたさを感じたようです。

2年

DVD「平和への道を築く」
 「平和」の維持には国際協力が必要であり、日本が大きな役割を担っていることについて学びました。

3年

絵本「人はなぜ争うの？」、ピースブック、
13歳からの平和教室、原爆投下など
 平和のありがたさや今の生活に感謝する気持ちを授業の中で改めて確認する姿がみられました。

「…親愛なる兄弟姉妹のみなさん、すべての子どもの輝ける未来のために、私たちは学校と教育を求めます。私たちはこれからも旅を続けます。その目的地は、平和と教育。（中略）言葉には力があります。わたしたちの言葉で世界を変えられます。でもそのためには、強くならなければなりません。知識という武器を持ちましょう。連帯と絆という盾を持ちましょう。親愛なる兄弟姉妹の皆さん、忘れてはなりません。何百万もの人々が貧困、不正、無知に苦しんでいます。何百万もの子どもたちが学校に通えずにいます。わたしたちの兄弟姉妹が、明るく平和な未来を待ち望んでいます。そのために、世界の無学、貧困、テロに立ち向かいましょう。本とペンを持って闘いましょう。それこそが、わたしたちのもっとも強い武器なのです。ひとりの子ども、ひとりの教師、一冊の本、そして一本のペンが、世界を変えるのです。教育こそ、唯一の解決策です。まず、教育を。」